



山形県木材産業協同組合

〒990-2473 山形市松栄 1-5-41
 TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699
 URL:<http://www.mokusankyo.jp>
 E-mail:yamawood@mokusankyo.com

目次

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 林野庁来年度予算概算要求発表！ | 4. やまがた美しい森林づくり大会 |
| 2. 総会時の質問事項について | 5. 木造乗馬クラブ建設！ |
| 3. 白鷹町新庁舎建設中!! | 6. シリーズ森林・林業白書解説！ |



1 林野庁来年度予算概算要求発表!!

8月31日(金)恒例の2019年度概算要求を発表した。総額3,452億円(対前年比115%)におよぶ積極的予算となっています。木材産業関連事業では、林業・木材産業成長産業化促進対策1,473億円の中の拡充予算の一つが木造公共建築物等の整備です。久しぶりの補助事業ですが、補助対象が公共建築物の木造化や内装木質化で補助率1/2以内です。対象施設例として、文化交流センター、保育園、児童館、文化財展示施設、病院、福祉施設、観光案内施設、ターミナル施設等です。事業のポイントとして、JAS製材品の使用の義務付けや意欲と能力のある林業経営体との連携等が予算配分の加点の対象となる見込みです。

木質バイオマス利用促進施設整備事業では、山村地域で地域の関係者の連携の下、熱利用又は熱電供給により、森林資源を地域内で持続的に活用する取組である「地域内エコシステム」の構築を重点的に支援していきます。具体的には、未利用間伐材等活用機材整備や木質バイオマス供給施設整備、木質バイオマスエネルギー利用施設整備に補助率1/2(通常1/3)を適用する。補助対象は移動式チップパー、林地残材収集運搬車、乾燥施設、貯木場等です。

民間セクターによる非住宅建築物等木材利用促進事業(新規)では、木材利用に取り組む民間企業ネットワークの構築を支援します。具体的には、木材利用を進める上での課題・条件の整理、木材供給者への条件の提示等の取り組みを支援します。また、新たな木造建築の設計施工システムの確立支援では、非住宅分野で木供給者との連携による木材調達の効率化や工法の工夫、施工期間の短縮化等による低コスト化に取り組みます。最後に、民間企業を含む木材利用の理解醸成では、木材利用に向けた普及啓発活動や顕彰制度、木育活動等「木づかい運動」の取組を支援します。

2 第44回総会時の質問事項について

5月25日開催された第44回通常総会時に質問のありました出資金の取扱について、第2回臨時理事会(書面による)等で検討し、次のとおり承認されましたので報告します。

1. 出資金の現状について : 「定款第10条 前条第1項の承諾を得た者は、遅滞なく、その引き受けようとする出資の全額を払込みしなければならない。」その他、理事会申し合わせ事項として、新規加入の事業者には出資金6口以上の出資をお願いしています。現状では、これまでの経緯もあり、会員の出資口数にバラツキ(2~34口)が生じています。

2. 出資金の取扱について : 6口を超える会員で要請があれば、「定款第17条 組合員は次の各号に該当するときは、事業年度の終わりにおいてその出資口数の減少を請求することができる。」を準用してもらう。6口未満の会員につきましては、できるだけ6口以上となるように声掛けを継続していくこととする。 以上。

3 白鷹町新庁舎建設中!!

白鷹町では、老朽化した庁舎や公民館などを複合化した木造施設の建設が進んでいる。町は、森林面積約1万ha、森林蓄積約2百万 m^3 の資源を有している置賜地方有数の林業地である。3年前から、この地元産スギ無垢材で在来軸組構法のまちづくり複合施設の検討がなされてきた。施設を耐火構造で区切り、各棟を延べ床面積千 m^2 以下の別棟とし、施設の大半が耐火の規定がかからない設計としている。延べ床面積は約4千6百 m^2 で8棟に分棟した造りとなっている。



また、地元の林業組合、製材所などと木材調達に関する会議を実施し、地元木材資源の把握と調達体制の整備を進め、施設整備が地元林業・製材業の振興に大きく寄与することとなった。大型木工事の課題である木材の乾燥と強度測定機については、2年前に合板・製材生産性強化対策事業（林野庁補助金）に採択され、おきたま木材乾燥センター(株)を設立し、町内製材工場等から生産された製品を仕上げ納入していく体制を整えている。

素材は主に町内の70年生以上のスギ材を使用する。積雪が1.5mと多いため、町産材の強度試験等を実施し、E70以上、SD20以下で指定したが、JAS指定はなく構造計算は無等級材で計算している。柱は240mm角で120×240mmの2丁使いを前提に計画。梁も120×360mmを最大寸法とし、2丁合わせも使用する。壁等は24mm構造用合板の両面張りや縦格子120×240mm当も利用する。大会議室は16.4mの大スパンをスギ無垢のアーチ型トラス構造だ。

施設建設は6月から建て方工事が始まっており、現在の予定では、2月頃完成し5月からの使用を見込んでいる。9月21日(金)は木構造見学会も開催される。2年後までには県内3か所程度で市町村役場機能緊急保全事業(国庫)による庁舎建設が続く見込みだ。

4 やまがた美しい森林づくり推進大会運営委員会開催!!

8月30日(木)村山総合支庁4F402会議室において、平成30年度やまがた美しい森林づくり推進大会運営委員会(事務局:森林協会)が開催された。木産協からは企画委員として鈴木専務が、副会長の阿部理事長代理も兼ねて出席した。

第65回を迎えた山形県林材業年次大会であるが、やまがた美しい森林づくり推進大会と名称を併記するようになって10回目となる。運営委員15名が出席し、大会実施要領(案)などについて、原案どおり承認された。提案事項、大会決議については、細かい字句の訂正等意見が出され、企画委員を中心に一部精査していくこととなった。

その他で大会名称について、趣旨が分かりにくいので「山形県林材業年次大会」に戻してはどうかとの意見が出され、来年度に向けて検討してみたいとなった。

5 木造乗馬クラブ建設!!

(株)山形城南木材市場が山形市蔵王上野地区において、非住宅木工事の建設業として木造乗馬クラブ施設の建築に取り組んだ。この施設は馬場800 m^2 、馬房236 m^2 と管理棟で、木材調達と建て方を担っている。馬場には、秋田グラーラムの大断面米松集成材を使用している。5月始めに着工し、7月末に完成、8月下旬にオープンしている。



6 シリーズ森林・林業白書 (第2章)

第2章. 森林の整備・保全

本章は、日本の森林の現状と保全計画、被害対策、そして森林に関する国際的な取り組みについて記述されており、木材産業関係者にはあまりなじまない章ではあるが、森林整備の基本であるので一読いただきたい。近年は特に図表・写真等が多用されており、忙しい御仁は順番に図表等を見ていくだけで流れが理解できるそんな章でもある。

我が国の森林蓄積は右肩上がりに確実に増えている。また、国民の期待する森林の多面的機能のうち、木材生産機能への期待が高まっているとの報告がある。これらを踏まえた「森林・林業基本計画」では、本格的な利用期を迎えた森林資源を活かしCLT等新たな木材需要の創出と国産材の安定供給体制の構築、林業・木材産業の成長産業化を図り、地方創生や地球温暖化防止、生物多様性保全の取組を推進することとしている。

森林整備の動向としては、これまでの間伐対策に加え、主伐と再造林の強化、面的なまとまりを持った森林経営計画等による森林整備を強化し、強靱な国土保全と自然環境に配慮した多様な森林整備を進めていく。

また、北九州や広島県等で発生したゲリラ豪雨による流木災害等を踏まえ、流木化する可能性の高い流路部の立木の伐採や流木捕捉式治山(鋼製スリット等)ダムの設置等を一体的に実施することとしている。

国際的な取組として、気候変動枠組条約第3階締約国会議(COP3)における「京都議定書」やCOP21の「パリ協定」等が解説されている。

7 9月以降の行事予定

9月7日	選手村ビレッジプラザ木材伐採式(真室川町)	理事長
9月13日	山形県児童木工コンクール審査会(山形市)	専務
9月13-14日	地域再生シンポジウム(米沢市)	副理事長
9月18-19日	全国木材組合連合会東北支部会議(南陽市)	理事長・専務
9月19日	山形県再造林推進会議(山形市)	理事長
9月20-21日	JAS検査員東北地区ブロック研修会(青森市)	専務・検査員

8 日本百名山シリーズ紹介(赤石岳)

日本第7位の標高を誇り、南アルプスを代表する赤石岳に先日40年ぶりに登ってきた。赤石山脈の主峰で3,121m。名前の由来のとおり赤い岩(チャート)が特徴であり、南アルプスが以前に海だったことを物語っている。静岡県北部の三角地域周辺はオクシズ(奥静岡の意)と呼ばれ、新東名の開通とともに人気のスポットとなっている。登山口の畑薙ダムまでは静岡駅から山道をバスで2時間半ほど、そこから林道を管理者



タカネマツムシソウ

である東海フォレスト専用バスに乗り換え、さらに1時間走ったところに樫島(標高1,100m)という登山基地がある。そこからもの凄い急登が約4時間続き、赤石小屋(標高2,500m)に到着。翌朝、山頂までの急登約3時間で3kmの山頂に到達する。つらい登りだが、お花畑が素晴らしい。群落である。山頂からは目の前に富士山、隣に最南端の3kmの聖岳、北側に塩見岳、荒川三山、仙丈岳、中央アルプス、北アルプス、乗鞍岳、御岳が広がる絶景が続く。アクセスが大変で登山者も少なく、

きれいな山小屋で星空、ご来光、お花畑を満喫できる。

9 県からのお知らせ（林業振興課木材産業振興担当）

山形県産木材を活用した モデル的な民間施設を募集します！

～ 山形県県産木材利用施設顕彰
【やまがた しあわせウッド賞】のご案内 ～

【趣 旨】

県内の民間施設における木造化の取組を推進するため、県産木材を有効に活用した優良モデルとなる木造民間施設を対象に顕彰を行います。

【対象施設】

- ・ 原則として木造建築で、山形県内に平成29年7月1日～平成30年6月末日までの1年間に完成した民間施設とし、一般住宅（モデルハウス等を含む）は対象外。
- ・ 施設の木工事費が全体工事費のおおむね10%以上、かつ使用された木材のうち、県産木材をおおむね50%以上使用している施設。

「応募があった施設のうち、基準を満たした施設は県HP等で公表し、特に優秀な施設に対しては県から顕彰状の授与を行います」

【提出書類】 申請書に次の書類を添付

- ・ 出荷証明書等の写し（産地、使用量が分かるもの）
- ・ 建築確認済証等の写し
- ・ 配置図、平面図、立面図等の写し etc…



【募 集】

期間：平成30年9月3日（月）～
平成30年11月30日（金）（必着）
方法：やまがた県産木材利用センターに
提出書類を郵送or持参
住所：山形市松栄一丁目5番41号
TEL：023-674-7672



【問合せ先】山形県農林水産部林業振興課 木材産業振興担当
TEL：023-630-2527 / FAX：023-630-2238

10 厚生労働省からのお知らせ

安全帯が「墜落制止用器具」に変わります！
 ～安全・安心な作業のため、適切な器具への買い換えをお願いします～

厚生労働省は、建設業等の高所作業において使用される「安全帯」について、以下のような改正を行うとともに、安全な使用のためのガイドラインを策定しました。

今回の改正等のポイント

1. 安全帯を「墜落制止用器具」に変更します (安衛令(注1)の改正)

「安全帯」の名称を「墜落制止用器具」に改めます。
 「墜落制止用器具」として認められる器具は以下のとおりです。

	安全帯		墜落制止用器具
①	胴ベルト型 (一本つり)	○→	胴ベルト型 (一本つり)
②	胴ベルト型 (U字つり)	×	×
③	ハーネス型 (一本つり)	○→	ハーネス型 (一本つり)

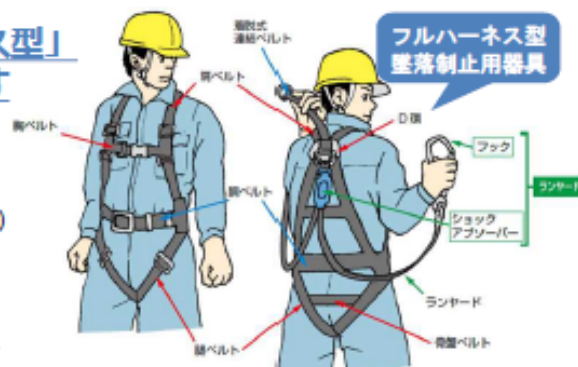
②には墜落を制止する機能がないことから、改正後は①と③のみが「墜落制止用器具」として認められることとなります。

※ 「墜落制止用器具」には、従来の安全帯に含まれていたワークポジショニング用器具であるU字つり用胴ベルトは含まれません。なお、法令用語としては「墜落制止用器具」となりますが、建設現場等において従来からの呼称である「安全帯」「胴ベルト」「ハーネス型安全帯」といった用語を使用することは差し支えありません。

2. 墜落制止用器具は「フルハーネス型」を使用することが原則となります

(安衛則(注2)等の改正、ガイドライン(注3)の策定)

墜落制止用器具はフルハーネス型が原則となりますが、フルハーネス型の着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合(高さが6.75m以下)は「胴ベルト型 (一本つり)」を使用できます。



3. 「安全衛生特別教育」が必要です

(安衛則・特別教育規程(注4)の改正)

以下の業務を行う労働者は、特別教育(学科4.5時間、実技1.5時間)を受けなければなりません。

- ▶ 高さが2m以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて、墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務(ロープ高所作業に係る業務を除く。)

(注1)労働安全衛生法施行令 (注2)労働安全衛生規則 (注3)墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン (注4)安全衛生特別教育規程

事業主の皆さまは、このリーフレット等を参考に、安全・安心な作業環境、ルールづくりを徹底してください。作業員の皆さまも、定められたルールに従い、適切な器具の使用をお願いいたします。

政令等の改正について P2～

ガイドラインについて P4～

11 7月期の住宅着工状況

平成30年7月期の県内新設住宅着工戸数は469戸となり、対前月比69.6%、対前年同月比88.8%、前年累計比122.1%となった。地域別で山形市、天童市、東根市等村山地区が減少し、新庄市、米沢市、鶴岡市等が伸びている。木造率は今月89.3%となっている。

1 県内新設住宅着工戸数(平成30年7月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別				資金別		木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
23年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
25年	5,323	3,543	1,372	21	387	5,136	187	4,515	84.8%	3,453	152	910
26年	4,550	2,529	1,505	83	437	4,335	215	3,797	83.4%	2,752	106	939
27年	5,403	3,076	1,721	15	591	5,338	65	4,575	84.7%	3,138	130	1,307
28年	5,675	3,046	1,930	16	683	5,592	83	4,875	85.9%	3,370	109	1,396
29年	5,516	2,976	1,837	50	653	5,473	43	4,661	84.5%	3,366	98	1,197
7月	528	322	152	3	51	527	1	489	92.6%	371	12	106
29.1~7月	2,924	1,669	827	43	385	2,903	21	2,540	86.9%	1,821	54	665
8月	561	284	225	1	51	548	13	483	86.1%	358	13	112
9月	581	299	216	1	65	579	2	465	80.0%	330	6	129
10月	537	236	246	2	53	535	2	394	73.4%	279	8	107
11月	456	261	151	2	42	453	3	387	84.9%	310	9	68
12月	457	227	172	1	57	455	2	392	85.8%	268	8	116
30.1月	358	139	170	2	47	356	2	316	88.3%	183	4	129
2月	379	160	163	1	55	378	1	300	79.2%	205	5	90
3月	535	217	186	11	121	535	0	392	73.3%	219	9	164
4月	723	310	371	3	39	468	255	434	60.0%	318	11	105
5月	433	239	144	4	46	426	7	368	85.0%	248	7	113
6月	674	366	247	1	60	674	0	545	80.9%	389	14	142
7月	469	321	104	0	44	467	2	419	89.3%	302	8	109
対前月比	69.6%	87.7%	42.1%	0.0%	73.3%	2.0%	-	76.9%	-	77.6%	57.1%	76.8%
対前年同月比	88.8%	99.7%	68.4%	0.0%	86.3%	88.6%	200.0%	85.7%	-	81.4%	66.7%	102.8%
29.1~当月計	2,924	1,669	827	43	385	2,903	21	2,540	86.9%	1,821	54	665
30.1~当月計	3,571	1,752	1,385	22	412	3,304	267	2,774	77.7%	1,864	58	852
対累計前年比	122.1%	105.0%	167.5%	51.2%	107.0%	113.8%	1271.4%	109.2%	-	102.4%	107.4%	128.1%

2 地域別新設住宅着工戸数(平成30年7月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	469	3,571	88.8%	122.1%	2,774
山形市	136	1,146	85.5%	157.4%	750
上山市	23	71	328.6%	126.8%	56
天童市	25	189	69.4%	70.0%	174
山辺町	7	40	70.0%	114.3%	40
中山町	5	16	500.0%	123.1%	15
東南村山	196	1,462	92.0%	132.7%	1,035
寒河江市	19	153	45.2%	111.7%	151
河北町	11	42	1100.0%	116.7%	40
西川町	0	6	-	200.0%	5
朝日町	1	4	-	200.0%	4
大江町	3	13	150.0%	86.7%	12
西村山郡	34	218	75.6%	113.0%	212
村山市	8	41	160.0%	141.4%	39
東根市	26	210	61.9%	74.2%	197
尾花沢市	6	23	150.0%	52.3%	23
大石田町	0	3	0.0%	13.0%	3
北村山	40	277	58.0%	73.1%	262
村山地域	270	1,957	82.6%	116.9%	1,509
新庄市	17	96	141.7%	133.3%	93
金山町	0	3	-	300.0%	3
最上町	2	9	100.0%	81.8%	7
舟形町	0	3	-	75.0%	3
真室川町	0	0	0.0%	0.0%	0

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
大蔵村	1	5	-	500.0%	4
鮭川村	2	4	-	200.0%	3
戸沢村	2	5	100.0%	250.0%	5
最上地域	24	125	133.3%	120.2%	118
米沢市	49	549	106.5%	171.0%	287
南陽市	10	51	38.5%	43.6%	50
高畠町	6	52	100.0%	148.6%	50
川西町	5	25	83.3%	131.6%	16
東南置賜	70	677	83.3%	137.6%	403
長井市	8	69	100.0%	119.0%	67
小国町	0	1	0.0%	14.3%	1
白鷹町	2	20	100.0%	95.2%	20
飯豊町	0	8	0.0%	100.0%	7
西置賜	10	98	76.9%	104.3%	95
置賜地域	80	775	82.5%	132.3%	498
鶴岡市	48	296	104.3%	121.3%	283
三川町	7	38	-	292.3%	36
庄内町	4	50	133.3%	166.7%	43
田川	59	384	120.4%	133.8%	362
酒田市	33	307	100.0%	117.2%	265
遊佐町	3	23	75.0%	209.1%	22
飽海	36	330	97.3%	120.9%	287
庄内地域	95	714	110.5%	127.5%	649

注:累計は平成30年1月~